

平成31年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（ 待賢 幼稚園）

教育目標

「自分で考え、自分で動き、意欲をもって遊ぶ子どもの育成」

○自己を発揮する子ども ○人とつながることを喜ぶ子ども ○主体的に遊ぶ子ども

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年 9月 18日	学校運営協議会理事
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

・幼児が主体的に遊び姿を環境構成等から考え、日々の保育の援助（支援）を探る。

*安心、安全、主体性を重視した園の環境が生かされる保育環境づくりを通して

・計画性をもった保育の取組とねらいを明確にした週案の作成

（取組結果を検証する）各種指標

・幼児の遊び姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討

・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省、評価の記述・事例検討）・アンケート結果「97%」	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">・研究主題にある「主体的に遊ぶ子どもの姿を探る」を考えていくことは、保育の改善や子どもの変容につながりつつある。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">・教師が願いをもって環境を構成したり、遊びを援助したりすることが、主体的に遊ぶ子どもを見取る保育につながっている。2学期以降も子どもの遊びに願いをもち取り組んでいく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none">・幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省、評価の記述・事例検討）・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・子どもたちが思う存分体を動かし、集団の中で子ども一人一人が生き生きと活動できている。・幼稚園は大勢の子どもがいてこそ、一人一人の子どもの育つところである。学級全体の子どもの成長を見つめながら、自分の子どもの成長を喜べる保護者であってほしい。・子どもたちが安全で安心して園外保育へ出かけられるように協力していきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（2）幼小連携・接続に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・年間交流計画の作成・通園区域内にある保幼小(中)学校への保育公開及び合同研修・接続カリキュラムの作成と検討・「親子で絵本！」の取組の定着	
(取組結果を検証する) 各種指標	
	<ul style="list-style-type: none">・交流の事前・事後の検討・公開保育及び合同研修の回数

- ・「親子で絵本！」のノート活用度
- ・アンケート項目「“親子で絵本！”の取組は楽しめている」

中間評価

各種指標結果

- ・幼小交流と幼小連携会議の実施
- ・「親子で絵本！」のノート活用率「100%」

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中連携による保育参観や交流は、見通しをもって計画的に取り組むことができた。 ・園全体で絵本貸出に取り組んでおり、絵本読書ノートの活用率は100%である。 ・殆どの家庭で親子読書は楽しめているようであるが、取り組み方を交流することも大切である。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期幼小交流は実施していないが、2学期初め授業参観後に幼小連絡会をもつことができた。 ・PTAが絵本室の整理や絵本修理などを行い、親子で絵本読書が楽しめる環境づくりができた。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小(中)学校への保育公開及び幼小連携会議の継続 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目「“親子で絵本！”を楽しんでいる」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園は小学校、中学校と同様に地域の中にある幼稚園として、さらに子どもの育ちがつながっていくための交流を進めてほしい。 ・小学校で使用している100冊読書ノートを公立幼稚園でも活用していることは、幼小が繋がっていくまでの良い取組である。 ・この時期しか楽しめない親子読書を、よりコミュニケーションツールとしても活用してほしい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(3) 預かり保育について

具体的な取組

- ・教育課程に係る教育時間外（預かり保育）の指導計画の見直し

*教育課程内の活動との関連を図りながらの見直し

- ・地域の様々な資源の活用

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・預かり保育参加人数
- ・預かり保育の活動や指導計画の見直し状況
- ・アンケート項目「喜んで預かり保育に参加している」

中間評価

各種指標結果

- ・預かり保育参加人数の増加
- ・預かり保育の活動や指導計画を随時見直す
- ・アンケート項目「97%」

自己評価

分析(成果と課題)

- ・2学期から参加人数が増えてきているため、ボランティアを積極的に活用している。
- ・6時までの預かり人数が増える傾向にあり、降園時担任と保護者の話す機会が減ってきている。
- ・教育時間内の保育内容を見据えながら、預かり保育の活動内容についても随時見直してきた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・就労等により園行事やPTA行事への参加が難しくなってきた保護者が増えている。活動内容を見直すとともに、OBの協力支援も得てPTA活動を継続している。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・6時までの預かり保育参加人数
- ・預かり保育の活動内容や指導計画の見直し状況
- ・アンケート項目「喜んで預かり保育に参加している」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・10月からの幼児教育無償化の実施により、就労等の保護者が増加し預かり保育利用者が増えるよう思う。園に依存しすぎて、親の子育てへの責任感が低下していかないようにしてほしい。
- ・子どもの姿を通して、園だけでなく地域も保護者と気軽に話ができる関係を築き、親支援を行っていきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

自己評価

分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
-----------------------------	----------------

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象とした教育相談の実施 ・幼稚園生活や保育内容説明会での先輩ママと触れ合い ・未就園児親子を対象とした、在園児や 地域の方と触れ合える取組 (七夕のつどい、運動会、クリスマスの集い、水遊びへの参加など) ・身長や体重を測り、親子で成長を喜び合う。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数 ・未就園児保護者に対するアンケート実施

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組 回数；27回 参加人数；延べ311人、教育相談件数；30件（4～9月） ・未就園児保護者に対するアンケートの実施
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組では、0～3歳児親子のひよっ子クラブ（毎週月・金曜日）や未就園3歳児親子のいちご組（月～木曜日）を通して、子育てについての教育相談を毎日行うことができた。 ・ひよっ子クラブでは、年々3歳児親子の参加が減少してきている傾向が見られる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、ホームページや地域へのチラシやポスターの配布、区役所内のチラシ配架などより広報している。 ・8月には「上京えんじえる“ぎゅっ”とひろば」に3年前から参加し、公立幼稚園の取組を積極的に広くアピールしている。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数 ・未就園児保護者に対するアンケートの実施

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の早い時期から幼稚園探しをして、早い時期からの保育を希望する保護者が増えてきている。2年保育の待賢幼稚園に3歳児親子が遊びにこないのも、それが一因になっているようだ。 ・地域の中にいる子育てママが孤立しないように、園と連携しながら取り組んでいきたい。 ・子育て支援の取組には、今後も子育て先輩ママとして、地域やOBが協力していきたい。

最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果	
	<table border="1"> <tr> <td>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</td> </tr> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> </table>	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題		
分析を踏まえた取組の改善		
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策	

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組	○学校運営協議会3企画委員会の取組の検証
	<p>A. 親子の学びプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレーパーティ、もちつき、絵本室の整備・貸出、子育て支援センターとしての活動等を行う。 <p>B. からだ元気プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子遠足・夏季プールの開設、運動会の競技、冬のマラソン、預かり保育によるキッズサッカー・キッズヨガ体験等を行う。 <p>C. 連携プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小交流、中学校チャレンジ体験受け入れ、待賢力一二バル、お茶体験、敬老交流会等を行う。
○地域資源を活かした指導計画の作成	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や地域の方々の声 ・アンケート項目 「子どもは幼稚園での取組の中で地域や地域の人に親しみをもっている」 	

中間評価

各種指標結果	○交流の回数や地域の方々の声
	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目 「82%」

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域主催の「待賢カーニバル」には、園児とともにPTAも積極的に参加し、地域の方たちと協力して待賢カーニバルを盛り上げることができた。 ・前日準備ではPTAが頼りにされつつため、PTAの負担感が増えすぎないようにしていく。 ・夏休みに入り、学校運営協議会とおやじの会主催によるプール開放を2日間行うことができた。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事参加や協力体制の在り方については、地域とのつながりを大切にしながら、今後PTAにおいて毎年検討し改善を図っていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・交流の回数や地域の方々の声
- ・アンケート項目 「子どもは幼稚園での取組の中で地域や地域の人に親しみをもっている」

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・2年保育の本園は、10月からの幼児教育無償化実施により今後園児減少が大変懸念される。 ・今こそ地域とつながりの深い公立幼稚園は、小中学校との連携協力を密にして取組を進めていく。 ・「待賢カーニバル」については、地域とともにPTAOBも協力支援していきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（5）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標
教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園行事の見直しと精選 ・会議の精選と会議時間の効率化 ・ノー残業デー（毎水曜日）と18時までの電話応対時間の徹底 ・校務支援員活用による検証
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none">教職員の時間外勤務時間 「平均 4.3.5 時間」年休取得率 「36% (5 日以上)」
	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none">昨年度見直した園行事や会議の効率化などは、随時見直しながら実行してきた。毎水曜日はノーワークデーと共に職員朝礼をしない日に設定し、勤務時間厳守につなげている。2年保育の小規模園で教職員の異動があると、一部教職員の仕事量が増加する傾向になりやすい。昨年度に続く校務支援員配置は、教職員の負担感軽減と時間外勤務時間縮減につながっている。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">全ての取組を前年度踏襲とせず、その都度確実に見直し実行する。カレーパーティや運動会等の園行事は、全教職員がチームとなって行う。勤務時間外の時間を縮減するために、業務終了時刻を水曜日を除き 19 時とする。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none">教職員の勤務時間5 日以上の年休取得率
	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">昨年度、幼稚園が電話応対時間を 18 時までとしたことが、働き方改革の一環として地域にも広く浸透してきている。今年度、小学校が 19 時までの電話対応時間としたことがよく理解できた。保育充実のために働き方改革を進めるうえでは、来年度以降も校務支援員が配置されることを願う。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策